新春座談会

特集

これからの加古川駅周辺

市の重点施策の一つであるJR加古川駅周辺の再整備。昨年開催したシンポジウムや社会実験に参加した皆さんと一緒に、駅周辺のまちづくりについて話しました。

市長 岡田康裕
平成26年7月に市長に就任し現在3期目。駅周辺の再整備、河川敷でのにぎわいづくりなどに取り組む。

市議会議長 中村亮太
令和7年7月に第71代市議会議長に就任。駅周辺の活性化などを議論し、市に提案する取り組みを進めている。

神戸芸術工科大学 建築・環境デザイン学科 長濵 伸貴教授
加古川駅周辺まちづくり検討会会長として加古川駅周辺の再整備に携わっている。

NPO法人シミンズシーズ代表理事 阪口 努さん
寺家町商店街内で「かわのまちほいくえん」「かわのまちリビング」を運営。毎月開催の「かわのまちマーケット」をはじめ、イベントを多数主催。

石井 心陽（こはる）さん
市内高等学校2年生。通学で駅周辺を利用している。かわのまちマーケットなどの地域イベントにボランティアで参加。

大塚 ゆうきさん
6年前に他市から移住し、4人の子を育てている。親子サークルや買い物で駅周辺を利用。雑貨店としてイベントに出店し、社会実験にも参加。

再整備に向けて

市長 昨年は権現総合公園や日岡山公園のニュースポーツゾーンがオープンし、屋外で楽しめる場が増えました。

にぎわいづくりでは、河川敷でのかわまちづくりと共にJR加古川駅周辺の再整備を進めています。昨年8月に基本方針を策定しました。今年は令和9年度に向け基本計画を仕上げていきます。

議長 駅前の再整備は大きな投資が必要ですので、議会では年間を通じた調査テーマとして、議論を深めながら市民の代表という立場で要望をしっかりと伝えていきます。

市長 昨年は駅前の公共空間を利活用する社会実験をしました。イベントを開催したり、ストリートファニチャーを設置したりし、人の流れや集まり方、利用の状況などを確かめました。

皆さんの駅周辺との関わり方やイベントなどへの参加について、教えてください。

大塚 加古川に移住してきたのがコロナ禍の直前で、何もできないまま3、4年が過ぎやっと自由になってきたところで、家族でハンドメイドショップを立ち上げました。阪口さんがされている「かわのまちマーケット」にも出店しています。駅周辺は商業施設も多く、よく利用しています。

石井 私は高砂市在住で、自転車で駅周辺を通りながら高校へ通っています。かわのまちマーケットにボランティアで参加し、スタッフ・運営メンバーとして出店者やスタッフの皆さんと交流し、いろいろな体験をさせていただいています。

阪口 僕は「みんなでいろんなことをつくっていく」というのをテーマに活動しています。イベントを企画していて感じますが、駅前を使いたい人やプレーヤー（運営者・出演者など）がとても多いんですよ。

市長 さまざまなイベントが盛り上がっていますね。駅前や河川敷の社会実験を通して、市民の皆さんの中に多くのプレーヤーがいらっしゃることが分かりました。

阪口 「何かをやりたい人この指止まれ！」と声を掛けたらすぐに集まるのが、加古川の人の魅力の一つかなと思います。

長濵 阪口さんのように、最初に声を上げてまちづくりをリードする人材が重要です。皆さん何かしたい気持ちがあるんですよね。でも「こんなことをしてもいいのかな」というためらいもあるんです。社会実験は「ここまでならできる」ということを確かめる目的もあります。

寄り道できるまちで思い出をつくる

長濵 私の大学でも加古川出身の学生が多いんですが、大阪や神戸とは違う、加古川のキャラクターを感じます。すごく元気で、でもちゃんと真面目にやる二面性があります。「かこがわっこ」とでもいいましょうか。

でも潜在的に少し遠慮がちなのでしょう。社会実験は「かこがわっこ」たちの背中を押すにはとてもいいタイミングだったと思います。彼らが笑って自由に活動している、そんな実験になったのではないでしょうか。

社会実験
ストリートファニチャーの設置

くつろぎ空間をつくる目的で、JR加古川駅南広場やベルデモール商店街にベンチやテーブルなどを設置。木材は地元の工務店が協力し、ベンチ作りワークショップを行うなど製作過程にも人々が関わる仕組みを考えました。

Check!
JR加古川駅周辺の再整備

JR加古川駅周辺をより使いやすく便利な場所にし、さまざまな世代の人が集まって過ごせるよう、市では再整備に向けて準備を進めています。カピル21ビルやサンライズ加古川ビルなどを、商業施設や図書館、子育てプラザ、文化ホールなどの複合施設に整備します。

くわしくはこちら

12月号でも特集しています。

くわしくはこちら

大塚　初めてストリートファニチャーが置かれた時、学校帰りに集まって楽しそうにしている学生たちを見ました。私も保育園帰りにママさんたちと集まって話をする時間ができました。交流の場が一つ増え、生活に潤いが生まれました。

石井　ボランティアをして感じたのは、普段は高校生同士や保護者同士のような同じコミュニティの中でしか話さないけれど、さまざまな世代が交わると場が活性化するということでした。

議長　石井さんや大塚さんのように市民の皆さんが生き生きと活動している様子を見ていると、多くの人が立ち寄ったり関わったりできるような場所の必要性を感じます。

長濵　近年よくいわれる「ウオーカブル」で一番重要なのは「寄り道できること」です。寄り道はぜいたくな時間なんですよね。寄り道できる場所をどうやって作り出すか。これから加古川で作ろうとしているモデルは、現代の再開発の一つの回答になる可能性があるなと思います。

阪口　僕は「昔遊び」や「読み聞かせ」など、小規模のイベントを行っていて、こどもたちに人気なんですよ。イベントを見て「私たちにもできそう、やってみたい」と思う人たちが増え、連鎖していけば「ここに来れば何かしている」というにぎやかな空間になっていくと感じています。

石井　私は商店街を自転車で通っていますが、人通りが増えてにぎやかになったら、自転車を押して歩くと思います。歩きでしか見えない景色があるし、その時に「おはよう」と声をかけてくれる人が、同世代の友だちだけじゃなくなるのかなって考えるとわくわくします。

市長　学生がただ通りすぎるのではなく、寄り道をして思い出に残るような体験をしてほしいですね。加古川に住んでいる実感ってそういうことなのかもしれないですね。

加古川をどんなまちにしたいか

長濵　これから基本計画を考える上で、市民の皆さんの参加も含めて議論を続けてほしいですね。

議長　議会にはさまざまな立場の人から「駅前にこういう機能が欲しい」という要望が届きます。世代を問わず多くの人が利用できる空間になるように、市と一緒に考えていきます。

長濵　より良いまちを目指すのは、私たちのためというよりこどもたちのためなんですよね。この先、加古川で思い出をつくっていくこどもたちにとって何が一番いいのかを、十分に議論していくのが大人の責任ですよね。

大塚　私が住んでいる地域はおじいちゃんおばあちゃんが多いのですが、すごく心が温かい方たちばかりです。コロナ禍の時もお手玉を貸してくれたり、一緒にこどもの面倒をみてくれたりしました。

長濵　加古川の人たちって、まだいい意味で昭和なんですよ。それが資産のような気がしていますね。

社会実験
公共空間の利活用

通常は一般利用が制限されている駅周辺の公共空間で、飲食店が並ぶイベントやこどもが参加できるイベントなどを開催。公共空間を活用することで生まれる可能性や課題などを把握するため、令和4年度から行っている。

かこがわやるDAY!!

駅前みちあそび

大塚　そうですよね。加古川の何が好きなのか改めて考えたら、住んでいる人たちだと気付きました。それで、いろんなイベントに参加したら人とのつながりが一気に増えたんです。みんなで手をつないで、みんなで子育てしていけるなって感じています。これからもいろんなことに挑戦したいです。

阪口　僕はプロセスがすごく大事だと思っているので、コミュニケーションを取りながら駅周辺をつくっていきたいです。

　再整備が終わった後も、どんどん変化していく。変化が起こるように人が育って、駅周辺が使われていったらいいなと思います。

石井　私は社会実験イベントの「かこがわやるDAY!!」とか「駅前みちあそび」などには参加者として行ったのですが、歩いていたらイベントに参加する前までは知らなかった人があいさつしてくれるんです。このつながりの深さが本当に大事だなと思います。

　SNSって顔が見えないままつながっちゃうじゃないですか。そんな時代だからこそ、イベントに参加することで知っている顔が増え、つながることをもっとみんなに体感してほしいです。

市長　基本方針の中でも、「かこがわらしいひとの顔、ひとのつながりがみえるまち」をコンセプトとして掲げています。

長濵　これからは、プロセスも含めて、市民の皆さんと行政が一緒に、オリジナルの物語を作らないといけません。買い物などの日常に加え季節ごとのにぎわいなども駅前にあると、とてもまちらしくなります。加古川の人たちは呼びかけたら集まってくれるし、社会実験をすると反応してくれるし、加古川らしい駅前をつくれると思います。

議長　議会は皆さんと市をつなぐ役割を担っています。まちづくりを行う上で日頃から皆さんの声を聞き市へ要望を伝えるなど、皆さんを応援していきます。次の世代にどんなまちを残せるかを第一に考え、多くの人が活躍できることも念頭に置きながら、先を見据えて取り組んでいきます。

市長　皆さんとお話すればするほど、目指すべき方向性がクリアになっていきます。市ではハード面を整えていきますが、市民の皆さんが主役になって思い出をつくり、その先に愛郷心が育まれる場所になるよう取り組んでいきます。

INFORMATION

公共空間を活用した駅周辺イベント

パフォーマンスや飲食物・雑貨の販売などを行っています。

くわしくはこちら

Decidim（デシディム）で意見・アイデアを募集中!

オンライン上でJR加古川駅周辺への意見などを投稿できます。

くわしくはこちら

加古川駅周辺
まちづくりワークショップ

将来のJR加古川駅前での過ごし方や広場空間、施設構成など過去3回分をまとめ、発表します。

日 1月31日（土）午後2時～4時
場 まちづくりセンター　定 30人（先着）
申 1月27日までに市ホームページ
問 加古川駅周辺再整備推進課
☎427・3153

くわしくはこちら